

基礎の成聖祈禱

※(敷地の中央に祭台を設け、東側に聖像、十字架、燭台、聖水を入れた聖水器、イッソップ、基礎石〔又は盛り土〕を置き、祈願者及び建築に従事する者は司祭の後方で東向きに立ち、祈禱を始める。)

司輔誦

君や、祝讃せよ。

我等の神は恒に崇め讃めらる、今も何時も世世に。

アミン。

常套の始め

我等の神や光榮は爾に帰す、光榮は爾に帰す。

天の王慰むる者や、眞実の神、在らざる所なき者、満たざる所なき者や、
の寶藏なる者、生命を賜うの主や、來たりて我等の中に居り、我等を諸の穢

より潔くせよ、至善者や我等の靈を救い給え。
聖なる神、聖なる勇毅、聖なる常生の者や、我等を憐めよ。(三次)
光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
至聖三者や我等を憐めよ、主や我等の罪を潔くせよ、主宰や我等の愆を赦
せ、聖なる者や臨みて我等の病を癒し給え、悉く爾の名に因る。
主憐めよ。(三次)

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。
天に在す我等の父や、願わくは爾の名は聖とせられ、爾の国は來たり、爾の旨
は天に行わるが如く地にも行われん、我が日用の糧を今日我等に與え給え、
我等に債ある者を我等免すが如く、我等の債を免し給え、我等を誘に導か
ず、猶我等を凶惡より救い給え。
蓋國と權能と光榮は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に。

アミン。
主憐めよ(三次)。

光榮は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

來たれ、我等の王神に叩拝せん。
來たれ、ハリストス我等の王神に叩拝俯伏せん。
來たれ、ハリストス我等の王と神の前に叩拝俯伏せん。

第百四十二聖詠

主よ、我が祈を聆き、爾の眞實に依りて我が願に耳を傾けよ、爾の義に依りて我に聽き給え。爾の僕と訟を為す母れ、蓋凡そ生命ある者は、一も爾の前に義とせられざらん。敵は我が靈を逐い、我が生命を地に蹂り、我を久しう死せし者の如く暗に居らしむ、我が靈は我の衷に悶え、我が心は我の衷に曠むしきが如し。我古の日を想い、凡そ爾の行いしことを考え、爾が手の工作を計る。我が手を伸べて爾に向い、我が靈は渴ける地の如く爾を慕う。主よ、速に我に聽き給え、我が靈は衰えたり、爾の顔を我に隠す母れ、然らずば我は墓に入る者の如くならん。我に夙に爾の憐を聽かしめ給え、我爾を頼めばなり。主よ、我に行くべき途を示し給え、我が靈を爾に举ぐればなり。主よ、我の僕なればなり。

を我が敵より救い給え、我爾に趨り附く。我に爾の旨を行うを教え給え、爾は我の神なればなり。願わくは爾の善なる神は我を義の地に導かん。主よ、爾の名に依りて我を生かし給え、爾の義に依りて我が靈を苦難より引き出し給え、爾の憐を以て我が敵を滅ぼし、凡そ我が靈を攻むる者を夷げ給え、我は爾の僕なればなり。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。

アリルイヤ、アリルイヤ、アリルイヤ、神や光栄は爾に帰す。(三次)

重聯祷

神や、爾の大なる憐に因りて我等を憐めよ、爾に祈る、聆き納れて憐めよ。

主憐めよ。(三次) (以下毎次同様)

又此處に家屋の基礎を新たに築かんとする爾の諸僕婢〔某〕に、慈憐、生命、平安、壯健、救贖、眷顧、寛宥、及び諸罪の赦しを賜わんが為に祈る。又この選ばれし土地に、天よりの降福を賜わんが為に祈る。

又爾の諸僕婢〔某〕が善良の志いのちを以てする企のぞみに、降福を賜わんが為に祈る。
又此の基礎に降福し、聖神の力と働きと被とに因りて、爾の名の光榮の為に、
障害なく、安全に、竣工に至るを賜わんが為に祈る。
又此の工事に從事する悉ことごとくの職人が、聖神の力と働きと被とに因りて其手の業わざを助けられ、工事が進捗せしめられて、速に竣えらるるものとなるが為に祈る。

神我が救世主、地の四極と遠く海に居る者との恃たのみや、我等に聞き給え、主宰や、
我等の罪に仁慈を垂れ、仁慈を垂れて我等を憐あわれみ給え、蓋爾は仁慈にして人を愛する神なり、我等光榮を爾父と子と聖神に獻ず、今も何時も世世に。

アミン。

主憐めよ。

文

神・全能者、智惠を以て天を造り、地を其固そのかた基もとに建てし萬有の造化主・造成

祝

主や、爾の僕（婢）〔某〕、爾の能力の権柄に憑りて居處すまいの為に家を築かんことを企て、其基礎を置かんと欲する者を顧かえりみ、此の家を堅かたき石の上に基もとづけて、爾の神聖なる福音經の聲の如く、風も、水も、其他の者も、之を害あくうこと能わざらしめ、之を落成に至らしめて、此の中に住まんと欲する者を凡およその敵の惡謀あくぼうより免まぬかれしめ給え、蓋けんべい權柄及び國と權能と光榮は爾父と子と聖神に帰す、今も何時も世に。

アミン。

※(司祭は、「基礎石」又は「盛り土」に聖水を灌ぎながら曰く。)

此の石（又は敷地）は、此の聖水の灌そそがるるを以て降福・成聖せらる、父及び子及び聖神の名に依りてなり。（三次）

アミン。（毎時応答する）

※(司祭が十字架とイッソップを持ち、敷地の四隅に聖水を灌ぐ時、左のトロパリを歌う。)

トロ・パリ（第一調）

主や、爾の民を救い、爾の業に福を降せ、我が國に福を與え、爾の十字架にて、爾の住處を護り給え。（必要に応じて繰り返し歌う。）

睿智。

至聖なる生神女や、我等を救い給え。

ヘルワイムより尊くセラファイムに並びなく榮え、貞操を破らずして神言を生みし、実の生神女たる爾を崇め讃む。

ハリストス神我等の侍や、光栄は爾に帰す、光栄は爾に歸す。

光栄は父と子と聖神に帰す、今も何時も世世に、アミン。主憐めよ（三次）。

ハリストス我等の真の神は、その至淨なる母、克肖捧神なる吾が諸神父、亞使徒日本の大主教聖ニコライ、及び諸聖人の祈祷に因りて、我等を憐み救わん、彼は善にして人を愛する主なればなり。

アミン。

詠

司

詠

司

輔

詠

輔

詠

幾歳も

主や、今新たに成聖せられし此の土地に立ちて祈る爾の僕（婢）〔某〕に、萬福にして平安なる度生、壯健と救贖、及び萬事に於ける善き進歩を與えて、彼（等）を幾歳（いくとせ）にも護り給え。

幾歳も。（三次）

※（司祭は、聖十字架に接吻させる時、彼（等）に聖水を注ぎ祝福する。）